

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 順天堂
理事長 小川 秀典

順天堂大学医学部附属順天堂医院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	99.9 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	465人	293人	570.1人	看護補助者	25人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	3人	7人	5.5人	理学療法士	17人	臨床検査技師	83人
薬剤師	85人	1人	85.3人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	人	0.0人	視能訓練士	12人	その他	0人
助産師	41人	人	41人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,065人	人	1,065人	臨床工学技士	24人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	1人	人	1人	栄養士	0人	その他の技術員	13人
歯科衛生士	3人	人	3人	歯科技工士	0人	事務職員	190人
管理栄養士	16人	人	16人	診療放射線技師	51人	その他の職員	42人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	932 人	0 人	932 人
1日当たり平均外来患者数	3,838 人	38 人	3,876 人
1日当たり平均調剤数	6,906 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る)	7 人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎間狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る)に係るものに限る)	6 人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	4 人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く)のちの、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く)に係るものに限る)	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	298 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	139人	・膿疱性乾癬	4人
・多発性硬化症	185人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	164人	・原発性胆汁性肝硬変	57人
・全身性エリテマトーデス	1,068人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	53人
・再生不良性貧血	37人	・混合性結合組織病	190人
・サルコイドーシス	189人	・原発性免疫不全症候群	8人
・筋萎縮性側索硬化症	30人	・特発性間質性肺炎	15人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	419人	・網膜色素変性症	138人
・特発性血小板減少性紫斑病	117人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	52人	・肺動脈性肺高血圧症	8人
・潰瘍性大腸炎	280人	・神経線維腫症	17人
・大動脈炎症候群	46人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	23人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	52人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	66人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	79人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	83人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	950人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	267人
・後縦靭帯骨化症	41人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	27人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェゲナー肉芽腫症	22人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	23人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	42人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	67人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	20人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	12人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・眼底三次元画像解析	・
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	・
・悪性黒色腫又は乳がんにおける センチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に3～4回程度 1ヶ月に13～15回程度 開催
部 検 の 状 況	部検症例数 54 例 / 部検率 9.5 %

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	アルツハイマー病の免疫機序の解析と新しい治療法の開発	田平 武	寄附講座	9,000,000	補 委 文部科学省
2	細胞外マトリックス分子によるシグナル局在化の分子機構の解明	平澤 恵理	老研センター	15,100,000	補 委 文部科学省
3	パーキンソン病における神経細胞死の機序解明とその防御	服部 信孝	神経学講座	19,600,000	補 委 文部科学省
4	虚血ニッチの形成過程とその生理学的意義の解明	服部 浩一	アトピーセンター	3,700,000	補 委 文部科学省
5	2型糖尿病の原因因子としての膵β細胞オートファジー機能不全	綿田 裕孝	代謝内分泌学講座	3,400,000	補 委 文部科学省
6	休職中のうつ病患者に対する職場復帰援助プログラムのニーズと効果に関する研究	酒井 佳永	精神医学講座	520,000	補 委 文部科学省
7	骨格筋萎縮シグナルにおけるPKCδの役割	田村 好史	代謝内分泌学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
8	B細胞抑制分子FcγRIIBの発現低下による形質細胞分化の亢進とその機序	林 青順	アトピーセンター	2,080,000	補 委 文部科学省
9	脂肪性肝炎の発癌プロセスと小胞体-ミトコンドリアストレス連関	今 一義	消化器内科学講座	1,430,000	補 委 文部科学省
10	LRRK2の機能解析	波田野 琢	神経学講座	1,820,000	補 委 文部科学省
11	新規パーキンソン病の原因遺伝子単離と機能解析	松山 学	老研センター	1,950,000	補 委 文部科学省
12	ParkinによるPINK1安定化機構の解析	柴 佳保里	老研センター	2,080,000	補 委 文部科学省
13	肝インスリン抵抗性における酸化ストレスの役割	内田 豊義	代謝内分泌学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
14	重症気管支喘息におけるPAF受容体を介したヒト肺マスト細胞活性化の関与	梶原 直樹	アトピーセンター	1,950,000	補 委 文部科学省
15	黄色ブドウ球菌の新規免疫攪乱遺伝子によるアトピー性皮膚炎及び感染症への影響を探索	片山 由紀	細菌学(微生物学・感染制御)	1,170,000	補 委 文部科学省
16	小児炎症性腸疾患における免疫学的検討と免疫調節薬の効果	藤井 徹	小児科学講座	1,690,000	補 委 文部科学省
17	Notchシグナルによるマスト細胞分化・機能制御とアレルギー炎症性疾患への関わり	中野 信浩	アトピーセンター	1,820,000	補 委 文部科学省
18	ヒト食道癌における所属リンパ節での癌関連遺伝子メチル化の解析	那須 元美	消外(上部消化管外科)	260,000	補 委 文部科学省
19	プロテオーム解析による関節リウマチの疼痛関連物質探索と痛み診断への応用	竹内 和世	麻酔・ペインクリニック	1,170,000	補 委 文部科学省
20	レーザーキャプチャー顕微鏡法による好酸球性副鼻腔炎のエオタキシン発現の解析	八尾 亨	耳鼻咽喉科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
21	一過性の血流制限筋萎縮防止の分子メカニズムの解明	寛佐織	スポーツロジセンター	2,210,000	補 委 文部科学省
22	運動によるインスリン感受性亢進における筋-マクロファージ間コミュニケーション	池田真一	スポーツロジセンター	2,340,000	補 委 文部科学省
23	経口糖負荷試験によるメタボリックフレキシビリティ測定法の開発	佐藤文彦	代謝内分泌学講座	2,210,000	補 委 文部科学省
24	補体受容体シグナルによる神経新生制御の解明と臨床応用	長谷川麻衣子	麻酔・ペインクリニック	1,950,000	補 委 文部科学省
25	単球-マクロファージのインスリン抵抗性と動脈硬化	三田智也	代謝内分泌学講座	1,690,000	補 委 文部科学省
26	腎糸球体上皮細胞におけるオートファジー関連蛋白の機能解析	浅沼悦子	腎臓内科学講座	2,340,000	補 委 文部科学省
27	ATP13A2の分子機能探索と局在異常に伴う神経細胞死の機序解明	里史明	老研センター	2,210,000	補 委 文部科学省
28	遺伝性パーキンソン病モデル細胞におけるmitophagyの細胞死における役割	斉木臣二	神経学講座	1,950,000	補 委 文部科学省
29	血糖変動による平滑筋増殖亢進作用のメカニズムの検討	野見山崇	代謝内分泌学講座	1,820,000	補 委 文部科学省
30	L-asparaginase薬剤性肺炎誘発因子の解明および予防法の検討	鈴木光幸	小児科学講座	1,690,000	補 委 文部科学省
31	RT-PCR法による腸管粘膜バリア機構およびプロバイオティクス感染予防効果の解明	久田研	小児科学講座	2,080,000	補 委 文部科学省
32	新規治療を目指した角化機序における転写調節因子Sp1の活性化機構の解析	高木 敏	皮膚科学講座	2,210,000	補 委 文部科学省
33	マスト細胞からの新たな痒み因子IL-31の産生とアトピー性皮膚炎掻痒における役割	原むつ子	腎臓内科学講座	2,600,000	補 委 文部科学省
34	5個の電子(物理)密度を使用した放射線治療計画	斎藤アンネ優子	放射線医学講座	1,430,000	補 委 文部科学省
35	酸化ストレスによる加齢性筋力低下の分子機構解明	野尻英俊	整形外科学講座	2,730,000	補 委 文部科学省
36	老人性骨粗鬆症モデルマウスの作製と解析	斎田良知	整形外科学講座	1,820,000	補 委 文部科学省

	研究課題名	氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
37	変形性関節疾患におけるWnt/ β -カテニンシグナルの機能解析	湯浅崇仁	整形外科学講座	1,430,000	補助委託 文部科学省
38	パルカンの成長板軟骨への血管侵入における作用機序解明	石島旨章	整形外科学講座	2,730,000	補助委託 文部科学省
39	ミクログリアにおける補体受容体シグナルの役割の解明と脳虚血性疾患治療への応用	高橋良佳	麻酔・ペインクリニック	2,080,000	補助委託 文部科学省
40	オピオイドおよび吸入麻酔薬が神経情報伝達制御に与える影響と作用機序に関する研究	工藤治	麻酔・ペインクリニック	1,300,000	補助委託 文部科学省
41	蝸牛線維細胞を標的としたBrn-4欠損マウスへの骨髄間葉系幹細胞移植	神谷和作	耳鼻咽喉科学講座	2,600,000	補助委託 文部科学省
42	難聴モデルマウスにおける聴力獲得の挑戦	飯塚崇	耳鼻咽喉科学講座	2,600,000	補助委託 文部科学省
43	加齢制御の分子機構解明	白澤卓二	寄附・加齢制御医学	4,810,000	補助委託 文部科学省
44	減黄過程での δ ビリルビン濃度の推移とアルブミン半減期および機能肝細胞総量との関連	今村 宏	消外(肝・胆・膵外科)	3,640,000	補助委託 文部科学省
45	遺伝子改変マウスを用いた遺伝子難聴の治療開発の挑戦	池田勝久	耳鼻咽喉科学講座	6,500,000	補助委託 文部科学省
46	新しいインスリン抵抗性発症因子としての“脂肪感受性”の規定因子の解明	河盛隆造	代謝内科学講座	8,060,000	補助委託 文部科学省
47	オートファジーを焦点とした消化器難治性疾患の病態解明および治療開発	渡辺純夫	消化器内科学講座	13,380,000	補助委託 文部科学省
48	パーキンソン病遺伝子改変モデルの解析及びモデル作成	服部信孝	神経学講座	6,630,000	補助委託 文部科学省
49	アデニンシレクターを標的とした好中球機能の調節と急性肺障害に対する治療法の開発	井上貴昭	救急・災害医学	9,100,000	補助委託 文部科学省
50	IgA腎症における糖鎖不全IgA1産生に対する黄色ブドウ球菌膜蛋白抗原の関与	清水 芳男	腎臓内科学講座	1,170,000	補助委託 文部科学省
51	プロスタグランジン受容体EP4を介した子宮頸管熱化制御機構の検討	杉村 基	産婦人科学講座	910,000	補助委託 文部科学省
52	僧帽弁複合体のねじれ運動から見た虚血性僧帽弁逆流発症メカニズムの解明	大門 雅夫	循環器内科学講座	390,000	補助委託 文部科学省
53	水中運動による抗動脈硬化作用機序の解明—3D管状ヒト血管モデルによる基礎的解析—	島田和典	循環器内科学講座	1,300,000	補助委託 文部科学省
54	2型糖尿病のコントロールと心理的、社会的要因との関連	弘世貴久	代謝内科学講座	1,560,000	補助委託 文部科学省
55	サイクロフィリンによるSARSコロナウィルス複製制御メカニズムの解析	山本 典生	総合診療科学	1,430,000	補助委託 文部科学省
56	動脈硬化症における酸化リン脂質を介したHDL機能異常の解明	三井田 孝	臨床検査医学講座	1,430,000	補助委託 文部科学省
57	健康な子供および成人から分離される市中型MRSAの分子疫学的解析とその動向調査	桑原京子	細菌学(微生物学・感染制御)	1,170,000	補助委託 文部科学省
58	肝病態におけるオートファジーの役割の解明	山科俊平	消化器内科学講座	1,300,000	補助委託 文部科学省
59	IgA腎症の発症と進展における樹状細胞の役割	鈴木祐介	腎臓内科学講座	1,300,000	補助委託 文部科学省
60	Lipid Raftsにおける家族性パーキンソン病原因たんぱく質の機能解析	久保紳一郎	神経学講座	910,000	補助委託 文部科学省
61	骨髄移植による β 細胞容積増加のメカニズム	綿田裕孝	代謝内科学講座	1,430,000	補助委託 文部科学省
62	胎児胎盤系に着目した早産児脳障害の病態解明	奥村彰久	小児科学講座	1,560,000	補助委託 文部科学省
63	未熟児・新生児における腸管粘膜バリアー機能の検討	清水俊明	小児科学講座	1,040,000	補助委託 文部科学省
64	殺菌物質PeoriasinとDermcidinの皮膚の自然免疫に対する役割	ニオンサハフランソワ	アトピーセンター	1,560,000	補助委託 文部科学省
65	てんかんによって惹起される海馬神経細胞新生は、てんかん原生となるか	中島 円	脳神経外科学講座	1,170,000	補助委託 文部科学省
66	細菌性中耳炎における中耳粘膜肥厚の分子制御の解明とその治療	古川正幸	耳鼻咽喉科学講座	1,430,000	補助委託 文部科学省
67	遺伝子治療用ソフトコンタクトレンズの開発	藤巻拓郎	眼科学講座	1,950,000	補助委託 文部科学省
68	虚血性白質障害におけるインスリン抵抗性の関与と抗酸化ペプチドの保護作用	卜部貴夫	神経学講座	1,950,000	補助委託 文部科学省
69	慢性腎臓病における運動療法評価マーカー作製への試み	谷本光生	腎臓内科学講座	2,990,000	補助委託 文部科学省
70	ヒト肺腺癌イニシエティング細胞の同定と分子生物学的特徴の解析および治療への応用	穴見洋一	呼吸器外科学	1,300,000	補助委託 文部科学省
71	市中に出現するPVL陽性MRSAの調査とその病原性に関する研究	伊藤輝代	細菌学(微生物学・感染制御)	2,340,000	補助委託 文部科学省
72	原発性胆汁性肝硬変の原因微生物とそのエピトープの特定	菊池賢	細菌学(微生物学・感染制御)	1,430,000	補助委託 文部科学省
73	自然免疫機構による肝臓の代謝機能モデュレーションと脂肪性肝炎の病態形成機序	池嶋健一	消化器内科学講座	2,730,000	補助委託 文部科学省
74	運動療法の冠動脈粥腫に与える影響に関する研究	代田浩之	循環器内科学講座	1,560,000	補助委託 文部科学省

	研究課題名	氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
75	CD44を標的とした中皮腫抗がん剤耐性機構の解明と治療戦略	高橋和久	呼吸器内科学講座	1,690,000	補	文部科学省
76	2型糖尿病モデルマウスを用いた糖尿病性腎症疾患感受性遺伝子座の同定	富野康日己	腎臓内科学講座	1,820,000	補	文部科学省
77	IgA腎症における責任細胞の臓器選択的移動に関わる制御機構の解明	堀越哲	腎臓内科学講座	1,690,000	補	文部科学省
78	常染色体優性遺伝性パーキンソン病における新規原因遺伝子単離に向けた遺伝子解析	富山弘幸	神経学講座	1,820,000	補	文部科学省
79	アルツハイマー病の発症、経過における閉塞型睡眠時無呼吸症候群の関与	塩田智美	呼吸器内科学講座	3,510,000	補	文部科学省
80	NK細胞リンパ腫におけるIF4E高発現とアスパラギナーゼによる抑制機序の検討	杉本耕一	血液学講座	1,950,000	補	文部科学省
81	CXCR4に関連するCML前駆細胞の骨髄遊走、定着機構の解明とその治療的应用	田部陽子	臨床検査医学講座	2,470,000	補	文部科学省
82	ユビキチン-プロテアソーム系の自己抗体産生における意義の検討	高崎芳成	膠原病内科学講座	1,950,000	補	文部科学省
83	SLEにおける性染色体に発現するToll様受容体を介した免疫異常	天野浩文	膠原病内科学講座	1,950,000	補	文部科学省
84	アレルギー疾患関連遺伝子発現及び細胞機能の調節によるアレルギー応答制御	西山千春	アトピーセンター	1,950,000	補	文部科学省
85	未消化食物由来ペプチドによる食物アレルギーおよび炎症性腸疾患発症に関する検討	大塚宣一	小児科学講座	1,950,000	補	文部科学省
86	海馬神経細胞新生を促し生着させる遺伝子導入の効果	菅野秀宣	脳神経外科学講座	1,430,000	補	文部科学省
87	脳内神経ネットワークからみた吸入麻酔薬の情報伝達と作用機序に関する研究	西村欣也	麻酔・ペインクリニック	1,170,000	補	文部科学省
88	中耳真珠腫における骨破壊に関わる促進因子と抑制因子の研究	楠威志	耳鼻咽喉科学講座	1,560,000	補	文部科学省
89	ステロイド線内障発症におけるエピジェネティック因子の解析	松田 彰	眼科学講座	2,210,000	補	文部科学省
90	短期的電気刺激による神経再生の促進と神経端側縫合への応用について	林礼人	形成外科学講座	3,380,000	補	文部科学省
91	リンパ脈管筋腫症(LAM)幹細胞の培養とLAMモデルマウス作成への応用	瀬山邦明	呼吸器内科学講座	1,200,000	補	文部科学省
92	ポドサイト特異的に発現する蛋白の機能解析	浅沼克彦	腎臓内科学講座	1,600,000	補	文部科学省
93	難聴遺伝子変異マウスへのIPS細胞移植による難聴レスキュー	池田勝久	耳鼻咽喉科学講座	1,500,000	補	文部科学省

計 93件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと診断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Psychopathology	Temperament and melancholic type: Path analysis of a prospective study of depressive mood change in a non-clinical population	Sakai Y,	精神科
2	Industrial Health	The relationship between temperament, job stress and overcommitment: a cross-sectional study using the TEMPS-A and a scale of ERI.	Tei Tominaga M,	精神科
3	Life Science	Synthetic triglyceride containing an arachidonic acid branch (8A8) prevents lipopolysaccharide-induced liver injury.	朴南哲	消化器内科
4	Hepatology	Pioglitazone promotes survival and prevents hepatic regeneration failure after partial hepatectomy in obese and diabetic KK-A ^y mice.	青山友則	消化器内科
5	Antimicrob Agents Chemother	Selection of Heterogeneous Vancomycin-Intermediate <i>Staphylococcus aureus</i> by Imipenem	Yuki Katayama,	感染制御科
6	Biochem Biophys Res Commun	Involvement of PU.1 in the transcriptional regulation of TNF- α .	Fukai T, et al.	皮膚科
7	Int Immunol.	Roles of PU.1 in monocyte- and mast cell-specific gene regulation: PU.1 transactivates CIITA pIV in cooperation with IFN- γ .	Ito T, et al.	皮膚科
8	The Laryngoscope	Eotaxin-1,-2,-3 Immunoreactivity and Protein Concentration in the Nasal Polyps of Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis Patients	Toru Yao	耳鼻咽喉科
9	FEBS letters	PINK1 is recruited to mitochondria with parkin and associates with LC3 in mitophagy	S. Kawajiri	脳神経内科
10	The Journal of Cell Biology	INK1 stabilized by mitochondrial depolarization recruits Parkin to damaged mitochondria and activates latent Parkin for mitophagy	N Matsuda	脳神経内科
11	Eur J Pediatr	Estimation of postoperative fat absorption using the ¹³ C mixed-triglyceride breath test in children with choledochal cyst	Suzuki M,	小児科
12	Eur J Gastroenterol Hepatol	Peginterferon alpha-2b and ribavirin for the treatment of chronic hepatitis C in Japanese pediatric and young adult patients: a survey of the Japan Society of Pediatric Hepatology.	Tajiri H,	小児科
13	Free Rad. Biol. Med.	Oxidative stress in skeletal muscle causes severe disturbance of exercise activity without muscle atrophy	Kuwahara H. et al.	整形外科
14	医学のあゆみ 特集号・細胞治療Update	難聴に対する細胞治療法の開発	神谷和作	耳鼻咽喉科
15	Otology Japan	Cell therapy targeting cochlear fibrocytes	神谷和作	耳鼻咽喉科
16	Neuroscience	Cochlear outer hair cells in a dominant-negative connexin26 mutant mouse preserve non-linear capacitance in spite of impaired distortion product otoacoustic emission	神谷和作	耳鼻咽喉科
17	Hum Gene Ther	Noninvasive in vivo delivery of transgene via adeno-associated virus into supporting cells of the neonatal mouse cochlea.	Iizuka T	耳鼻咽喉科
18	Int J Audiol,	Development of distortion product Otoacoustic emissions in C57BL/6J mice.	Narui Y	耳鼻咽喉科
19	Neuroscience	Postnatal development of the organ of Corti in dominant-negative Gjb2 transgenic mice.	Inoshita A	耳鼻咽喉科
20	Neuroscience	Cochlear outer hair cells in a dominant-negative connexin26 mutant mouse preserve non-linear capacitance in spite of impaired distortion product otoacoustic emission.	Minekawa A,	耳鼻咽喉科
21	Journal Of Neuroscience	A rotarod test for evaluation of motor skill learning.	Hiromi Shiotsuki,	脳神経内科
22	Journal of cell biology	PINK1 stabilized by mitochondrial depolarization recruits Parkin to damaged mitochondria and activates latent Parkin for mitophagy	Noriyuki Matsuda,	脳神経内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
23 The FASEB journal : official publication of the Federation of American Societies for Experimental Biology	Autocrine regulation of T-cell activation by ATP release and P2X7 receptors.	Inoue Y	救急・災害医学
24 Journal of Nephrology	Successful pregnancy in a female patient with congenital chloride diarrhea (CLD) and renal impairment.	Shimizu Y	腎臓内科
25 Clinical Nephrology	Severe erosive lesions in the digestive tract of patients with Henoch-Schönlein Purpura (HSP) and its impact on prognosis; Presentation of 2 cases and statistical review of adult-onset Japanese HSP.	Tobino K	腎臓内科
26 Nephrology Frontier	抗糸球体基底膜抗体型腎炎:治療法とアウトカムの検討	清水 芳男	腎臓内科
27 日本腎臓学会誌	抗糸球体基底膜抗体型腎炎とRPGN	清水 芳男	腎臓内科
28 Echocardiography	Dynamic Change of Mitral Annular Geometry and Motion in Ischemic Mitral Regurgitation Assessed by A Computerized 3D Echo Method.	Daimon M, et al.	循環器内科
29 J Heart Valve Dis	Echocardiographic Assessment of the Effects of Mitral Valve Repair on Mitral Valve Geometry in Rheumatic Mitral Stenosis.	Makinae H, et al.	循環器内科
30 Circ J	Immune System and Atherosclerotic Disease: Heterogeneity of leukocyte subsets participating in the pathogenesis of atherosclerosis.	Shimada K.	循環器内科
31 J Cardiol	Relationship between exercise tolerance and muscle strength following cardiac rehabilitation: Comparison of patients after cardiac surgery and patients with myocardial infarction.	Sumide T	循環器内科
32 J Cardiol	Effects of a cardiac rehabilitation in patients with metabolic syndrome after coronary artery bypass grafting.	Onishi T	循環器内科
33 J Cardiol	Serum Levels of Remnant Lipoprotein Cholesterol and Oxidized Low-density Lipoprotein in Patients with Coronary Artery Disease.	Hiki M,	循環器内科
34 Atherosclerosis	Short-term 20-mg atorvastatin therapy reduces key inflammatory factors including Jun N-terminal kinase and dendritic cells and matrix metalloproteinase expression in human abdominal aortic aneurysmal wall.	Kajimoto K,	循環器内科
35 プラクティス	2型糖尿病における教育入院の効果と心理的、社会的要因	山本 理沙子	代謝内分内分泌科
36 Antiviral Research.	TACE antagonists blocking ACE2 shedding caused by the spike protein of SARS-CoV are candidate antiviral compounds.	Haga S,	総合診療科学
37 J Atheroscler Thromb	High sensitive CRP and SAA reflect insulin resistance in smokers.	Osamu Hanyu, et al	臨床検査医学
38 Ann Clin Biochem	Seasonal variation in liver function tests: A time-series analysis of outpatient data.	Kazunori Miyake, et al.	臨床検査医学
39 Clin Chim Acta	Lipoprotein profile in children with two common cholesteryl ester transfer protein gene mutations, D442G and I14A, during the first year	Hironori Nagasaka, et	臨床検査医学
40 生物試料分析	慢性透析患者における脂質プロフィールと炎症マーカーの検討	笛木百合子ほか	臨床検査医学
41 J Pediatr Gastroenterol Nutr	A young Japanese boy with fibrinogen storage disease caused by Aguadilla mutation presenting with hypobeta-lipoproteinemia together with considerable liver disease.	Tsuyoshi Sogo, et al.	臨床検査医学
42 Metabolism	Effects of bezafibrate on dyslipidemia along with cholestasis in children with FIC1 deficiency manifesting progressive familial intrahepatic cholestasis.	Hironori Nagasaka, et al.	臨床検査医学
43 Analytical Biochemistry	HPLC determination of ketone bodies in human plasma by precolumn derivatization with p-nitrobenzene diazonium fluoroborate ketone body.	Susumu Yamato, et al.	臨床検査医学
44 Metabolism	Evaluation of endogenous nitric oxide synthesis in congenital urea cycle enzyme defects.	Hironori Nagasaka, et	臨床検査医学
45 Clin Chim Acta	Pre β 1-HDL is elevated in the fasting state, but markedly reduced postprandially in poorly controlled type 2 diabetic patients.	Satoshi Hirayama, et	臨床検査医学
46 Molecular Genetics and Metabolism	Sustaining hypercitrullinemia, hypercholesterolemia and augmented oxidative stress in Japanese children with aspartate/glutamate carrier isoform 2-citrin-deficiency even during the silent period.	Yoshiyuki Okano, et al.	臨床検査医学

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
47	Clin. Cancer Res	MDM2 antagonist nutlin-3 displays antiproliferative and proapoptotic activity in mantle cell lymphoma.	Yoko Tabe, et al.	臨床検査医学
48	J Clin Invest	Aberrantly glycosylated IgA1 in IgA nephropathy patients is recognized by IgG antibodies with restricted heterogeneity	Hitoshi Suzuki	腎臓内科
49	Nephrology Frontier	IgA腎症—病態の理解と治療の進歩—	Yusuke Suzuki 他	腎臓内科
50	Neurosci Lett	Mutation analysis for DJ-1 in sporadic and familial parkinsonism: screening strategy in parkinsonism.	Tomiyama H	脳神経内科
51	Biochem Biophys Res Commun	Parkin stabilizes PINK1 through direct interaction.	Shiba K	脳神経内科
52	J Int Med Res	Unmet needs of patients with Parkinson's disease: interview survey of patients and caregivers.	Hatano T	脳神経内科
53	Biochem Biophys Res Commun	Normal islet vascularization is dispensable for expansion of beta-cell mass in response to high-fat diet induced insulin resistance.	Toyofuku Y, et al.	代謝内分泌内科
54	Brain and Development	Callosal lesions and delirious behavior during febrile illness.	Okumura A,	小児科
55	Brain and Development	Outcome of acute necrotizing encephalopathy in relation to treatment with corticosteroids and gammaglobulin.	Okumura A,	小児科
56	European Journal of Paediatric Neurology	The spectrum of acute encephalopathy with reduced diffusion in the unilateral hemisphere.	Okumura A,	小児科
57	Pediatrics	Kernicterus in preterm infants.	Okumura A,	小児科
58	American Journal of Neuroradiology	Differences of clinical manifestations according to the patterns of brain lesions in acute encephalopathy with reduced diffusion in the bilateral hemispheres.	Okumura A,	小児科
59	Microbiology and Immunology	Acute necrotizing encephalopathy: a comparison between influenza and non-influenza cases.	Okumura A,	小児科
60	Brain and Development	Delirious behavior in children with acute necrotizing encephalopathy.	Okumura A,	小児科
61	Brain and Development	Usefulness of single-channel amplitude-integrated electroencephalography for continuous seizure monitoring in infancy: A	Okumura A,	小児科
62	American Journal of Medical Genetics Part A	Brainstem disconnection associated with nodular heterotopia and proatlantal arteries.	Okumura A,	小児科
63	Microbiology and Immunology	Differences in clinical manifestations of influenza-associated encephalopathy by age.	Okumura A,	小児科
64	Brain and Development	Efficacy of a diazepam suppository at preventing febrile seizure recurrence during a single febrile illness.	Okumura A,	小児科
65	Developmental Medicine and Child	Current explanations regarding febrile seizures provided by pediatricians in Tokyo.	Okumura A,	小児科
66	Pediatrics	Chronologic Changes in Neonatal EEG Findings in Periventricular Leukomalacia.	Okumura A,	小児科
67	Journal of Paediatrics and Child Health	Depressive tendency in children with growth hormone deficiency.	Okumura A,	小児科
68	Early Human Development	Fatty acid composition of the brain of intrauterine growth retardation rats and the effect of maternal docosahexaenoic acid enriched diet.	Okumura A,	小児科
69	Pediatrics International	Sudden unexpected cardiopulmonary arrest associated with influenza infection.	Okumura A,	小児科
70	Journal of Immunology	Antimicrobial peptides human β -defensins and cathelicidin LL-37 induce the secretion of a pruritogenic cytokine interleukin-31 by human mast cells	François Niyonsaba et al.	皮膚科
71	Child Nerve System	Seizures continue even after prompt anti-epileptic drug medication in Sturge-Weber syndrome study from prolonged video electrocorticography, a case report	Hajime Arai, et al.	脳神経外科
72	Neuroscience	Crucial role for Ser133-phosphorylated form of cyclic AMP-responsive element binding protein signaling in the differentiation and survival of neural progenitors under chronic cerebral hypoperfusion.	Nobukazu Miyamoto	脳神経内科

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
73	Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism	Protein kinase A-dependent suppression of reactive oxygen species in transient focal ischemia in adrenomedullin-deficient mice.	Nobukazu Miyamoto	脳神経内科
74	Brain Research	Pathophysiological dual action of adiponectin after transient focal ischemia in mouse brain.	Kenji Yatomi	脳神経内科
75	Laboratory Investigation	Long-term bacterial exposure can trigger nonsuppurative destructive cholangitis associated with multifocal epithelial inflammation.	菊池賢	感染制御科学
76	Hepatology:	Pioglitazone promotes survival and prevents hepatic regeneration failure after partial hepatectomy in obese and diabetic KK-A ^y mice.	池嶋健一	消化器内科
77	J. Gastroenterol.	The tumor suppressor protein PTEN inhibits rat hepatic stellate cell activation.	池嶋健一	消化器内科
78	Life Sci:	Synthetic triglyceride containing an arachidonic acid branch (8A8) prevents lipopolysaccharide-induced liver injury.	池嶋健一	消化器内科
79	Circulation Journal	Effects of phase III cardiac rehabilitation on mortality and cardiovascular events in elderly patients with stable coronary artery	Onishi T (代田 浩之)	循環器内科
80	Atherosclerosis	Early intensive statin treatment for six months improves long-term clinical outcomes in patients with acute coronary syndrome (extended-ESTABLISH trial)	Dohi T (代田 浩之)	循環器内科
81	Journal of the American College of Cardiology	Effect of intensive statin therapy on regression of coronary atherosclerosis in patients with acute coronary syndrome: A multicenter randomized trial evaluated by volumetric intravascular ultrasound using pitavastatin versus atorvastatin (JAPAN-ACS [japan assessment of pitavastatin and atorvastatin in acute coronary syndrome] study)	Hiro T (代田 浩之)	循環器内科
82	Oncogene	Osteopontin-mediated enhanced hyaluronan binding induces multidrug resistance in mesothelioma cells	Ken Tajima (高橋 和之)	呼吸器内科
83	順天堂医学	2型糖尿病腎症モデルマウス(KK-A ^y /Taマウス)におけるQTL解析による腎症疾患感受性遺伝子座の検討	青木竜弥 (富野康日己)	腎臓内科
84	Neurogenetics	A LRRK2 G2019S mutation carrier from Turkey shares the Japanese haplotype	Tomiyama H, et al.	脳神経内科
85	Neuroscience Letters	Mutation analysis for <i>DJ-1</i> in sporadic and familial parkinsonism: Screening strategy in parkinsonism	Tomiyama H, et al.	脳神経内科
86	Nature Genetics	Genome-wide association study identifies common variants at four loci as genetic risk factors for Parkinson's disease	Tomiyama H, et al.	脳神経内科
87	Movement Disorders	Preserved cardiac 123I-MIBG uptake and lack of severe autonomic dysfunction in a PARK9 patient.	Tomiyama H, et al.	脳神経内科
88	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet	Non-replication of association for six polymorphisms from meta-analysis of genome-wide association studies of Parkinson's disease: Large-scale collaborative study.	Tomiyama H, et al.	脳神経内科
89	Neurobiol Aging	Evaluation of the genetic contribution of <i>Omi/Htra2</i> to Parkinson disease in a large collaborative study.	Tomiyama H, et al.	脳神経内科
90	Nature	p53によるmicroRNA生成の調節	鈴木洋	血液内科
91	Eur J Haematol	52例の顆粒リンパ球増多症の解析により明らかになった高頻度の貧血の合併	川原新平	血液内科
92	Eur J Haematol	鼻NK細胞リンパ腫におけるアポトーシス関連分子の発現	安田肇	血液内科
93	Cancer Res	TGF- β によるヒト肝癌細胞のオートファジーの誘導	清野邦彦	血液内科
94	Int J Hematol	Plk1発現はリンパ腫特異的でなく鼻NK細胞リンパ腫では相対的に低い	今井英則	血液内科
95	J Clin Pathol	鼻NK細胞リンパ腫の自発的な消退	磯部泰司	血液内科
96	Cell Biol Int	Co-clustering of Golgi complex and other cytoplasmic organelles to crescentic region of half-moon nuclei during apoptosis	Nozawa K,	膠原病内科
97	Mod Rheumatol	Anti-proteasome activator 28 α is a novel anti-cytoplasmic antibody in patients with systemic lupus erythematosus and Sjögren's syndrome	Matsushita M	膠原病内科

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
98	Autoimmunity	Chemoattractant mechanism of Th1 cells in class III and IV lupus nephritis	Morimoto S	膠原病内科
99	Rheumatology(Oxford)	Up-regulation of the endoplasmic reticulum transmembrane protein UNC93B in the B cells of patients with active systemic lupus erythematosus.	Nakano S	膠原病内科
100	Arthritis and Rheumatism	Fcγ receptor-dependent expansion of a hyperactive monocyte subset in lupus-prone mice.	Amano H	膠原病内科
101	Journal of Autoimmunity	Inhibitory IgG Fc receptor promoter region polymorphism is a key genetic element for murine systemic lupus erythematosus.	Sato A	膠原病内科
102	Invest Ophthalmol Vis Sci	Hyperexpression of the high-affinity IgE receptor-β chain in chronic allergic keratoconjunctivitis.	Matsuda A et al.	眼科
103	Invest Ophthalmol Vis Sci	The Role of Interleukin-33 in Chronic Allergic Conjunctivitis	Matsuda A et al.	眼科
104	Proc Natl Acad Sci USA	Three susceptible loci associated with primary-open angle glaucoma identified by genome-wide association study in Japanese population.	Nakano M et al.	眼科
105	J Am Soc Nephrol.	Amino Acid Transporter LAT3 Is Required for Podocyte Development and Function.	Sekine Y et.al.	腎臓内科
106	Neuroscience	Cochlear outer hair cells in a dominant-negative connexin26 mutant mouse preserve non-linear capacitance in spite of impaired distortion product otoacoustic emission	Katsuhisa IKEDA	耳鼻咽喉科
107	International Journal of Audiology	Development of distortion product otoacoustic emissions in C57BL/6J mice.	Katsuhisa IKEDA	耳鼻咽喉科

計 107件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 新井 一
管理担当者氏名	各部署責任者(馬場 子孝、山岡 喜保、井田 豊太郎、大島 純子)

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院日誌類： 管理課 入院診療録： ・診療録管理室 平成21年5月以降は、電子カルテシステム内 外来診療録、 X線写真：医事課、カルテ室	病院日誌類については、管理課において年度別に、手術記録を含む入院診療録については、患者別に保管(順次マイクロ化保管)、ただし平成21年5月以降の入院診療録については、電子カルテシステム内保管、外来診療録については、診療科別に医事課担当で保管	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事部人事課	主に所属別、診療科別	
	高度の医療の提供の実績	事務部管理課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	学術・研究支援課 事務部管理課		
	高度の医療の研修の実績	事務部医事課		
	閲覧実績	事務部管理課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室 事務部医事課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務部医事課 薬剤部	<ul style="list-style-type: none"> ・付則に基づき、年1回以上医療安全管理委員会の議題として取り上げ、改正を検討。 ・毎月第3木曜日にRM全体委員会、第4水曜日に医療安全管理委員会を開催。また、隔月で危機管理・職業倫理委員会を開催。 ・セーフティーレクチャー(医療安全研修会)で「医療安全」「感染対策」「健康管理」「医療機器安全管理」「医薬品安全管理」について講義。e-Learningを使用して基礎講習会を全職員に受講してもらっている。 ・昨年度多く報告されたインシデント事例をRM委員会で検討し対策を立てて実施し、検証している。 	
	第規一則号第一に掲げる十一の確項保各の号状及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全推進部 医療安全管理室 ・順天堂医院医療安全マニュアル 他
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全推進部 医療安全管理室 ・順天堂医院医療安全マニュアル 他
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全推進部 ・順天堂医院医療安全マニュアル 他
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部 ・順天堂医院医療安全マニュアル 他		
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進部 ・順天堂医院医療安全マニュアル 他		

専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室長 堀 賢 ICP 5名 事務員 1名	
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進部 ・順天堂医院医療安全マニュアル 他	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事例は、医療安全管理委員会にて検討。 ・医療安全推進部に属する管理内容は医療安全管理指針に準拠する。
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	サービス課「患者さんご相談」コーナー	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室 順天堂医院感染対策ガイドラインマニュアル2010、学内HP、IE
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室 順天堂規約集 規第平12-6
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室 年次ごとに作成（別添参照）
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室 感染対策委員会にて報告・検討（日報・週報・月報） [MRSA・MDRO・各種届出が必要な感染症、血液培養ラウンド、抗菌薬マニュアルの発行 等]
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部長 佐瀬 一洋
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 (医薬品情報室) 年度ごとに開催日、出席者、研究内容を記録し、薬剤部にて今後の計画を含め一元管理
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 (医薬品情報室) 手順書については薬剤部で作成、改定後、医療安全管理委員会にて承認後、関連部門へ配付 実施状況については、各部署で実施後、薬剤部で一元管理
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 (医薬品情報室) 学会・企業・行政・患者・院内各部署からの情報を薬剤部医薬品情報室において収集、解析、一元管理し、学会・企業・行政・患者・院内各部署へ発信
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学室長 代田 浩之
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室 機種、研修内容、出席者名簿等を年度別に分類、保管
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室 機器管理ソフトにより計画し、月毎に分類、順次点検を行っている	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室 厚生労働省、PMDA、病院機能評価機構等の発行する情報を分析し、必要なものを医療機器安全情報としてレター等で周知させている。	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

平成22年度 院内職員研修会開催状況

	実施日	時間	研修会名	研修項目	開催場所	対象職種	参加人数
1	4月2日	150分	臨床研修医オリエンテーション	当院における感染対策 手指衛生について・安全機材使用方法など	生物化学系実習室	臨床研修医	84
2	4月7日	60分	新入職看護師 オリエンテーション	感染対策の基礎	有山記念講堂	新入職看護師	206
3	4月16日	90分×4	新入職看護師 オリエンテーション	手指衛生について・PPE使用方法など	生物学系実習室	新入職看護師	206
4	4月26日	20分	セーフティレクチャー	感染対策の指針と基本的注意事項	有山記念講堂	全職員	305
5	4月30日	20分	セーフティレクチャー	感染対策の指針と基本的注意事項	有山記念講堂	全職員	334
6	5月17日 ～6月11日	各60分	針刺し事故・ 粘膜曝露防止キャンペーン	採血・鋭利物取り扱い実践演習	看護研究会室	新卒看護師	150
7	5月28日	25分	セーフティレクチャー	針刺し事故について	有山記念講堂	全職員	484
8	6月29日	30分	針刺し事故・ 粘膜曝露防止キャンペーン	針刺し事故について	大学院8番教室	臨床研修医	45
9	6月30日	25分	セーフティレクチャー	針刺し事故について 海外の感染症情報	有山記念講堂	全職員	415
10	7月23日	25分	セーフティレクチャー	針刺し事故について 海外の感染症情報	有山記念講堂	全職員	490
11	8月23日	25分	セーフティレクチャー	海外の感染症情報	有山記念講堂	全職員	423
12	9月6日 ～11日	9:00 ～15:00	医療看護学部 看護課題実習	臨床の場における感染予防の試みと看護	院内	医療看護学部 4年生	4
13	9月13日 ～18日	9:00 ～15:00	医療看護学部 看護課題実習	臨床の場における感染予防の試みと看護	院内	医療看護学部 4年生	4
14	9月29日		セーフティレクチャー	(予定)インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	
15	未定 (10月頃)	90分	看護助手 集合教育	(予定)感染対策について	未定	看護助手	
16	10月25日		セーフティレクチャー	(予定)インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	
17	11月30日		セーフティレクチャー	(予定)インフルエンザ・感染性胃腸炎に注意	有山記念講堂	全職員	
18	12月27日		セーフティレクチャー	(予定)インフルエンザ・感染性胃腸炎に注意	有山記念講堂	全職員	
19	平成23年 1月27日		セーフティレクチャー	(予定)インフルエンザ・感染性胃腸炎に注意	有山記念講堂	全職員	
20	2月24日		セーフティレクチャー	(予定)結核予防デーに関して	有山記念講堂	全職員	
21	3月25日		セーフティレクチャー	(予定)結核予防デーに関して	有山記念講堂	全職員	

平成21年度 院内職員研修会開催状況

	実施日	時間	研修会名	研修項目	開催場所	対象職種	参加人数
1	4月2日	講義60分 実習40分	臨床研修医オリエンテーション	手指衛生・PPE使用方法・安全防護装備操作	生物化学系実習室	新入研修医	63
2	4月3日	20分	新入職員オリエンテーション	感染対策の基礎	有山記念講堂	新入看護師	200
3・4	4月14日・16日	各60分	新任看護師実践指導	手指衛生・PPE使用方法・安全防護装備操作	生物化学系実習室	新入看護師	172
5	4月21日	10分	セーフティーレクチャー	感染対策の指針	有山記念講堂	全職員	292
6	4月27日	10分	セーフティーレクチャー	豚インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	404
7	4月30日	10分	セーフティーレクチャー	豚インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	421
8	5月29日	10分	セーフティーレクチャー	新型インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	407
9	6月30日	10分	セーフティーレクチャー	新型インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	415
10	6月23日	20分	針刺し・粘膜曝露防止 キャンペーン	針刺し・粘膜曝露事故発生状況 針・鋭利物の取り扱い・翼状針の使用法	大学院8番教室	臨床研修医	46
11・12・13	7月14日・22日・27日	各30分	針刺し・粘膜曝露防止 キャンペーン	針刺し・粘膜曝露事故発生状況 針・鋭利物の取り扱い・翼状針の使用法	採血室	臨床検査部職員	55
14・15・16	7月15日・16日・22日	各20分	針刺し・粘膜曝露防止 キャンペーン	針刺し・粘膜曝露事故発生状況 針・鋭利物に関する注意事項	5号館3階会議室	委託清掃職員	75
17	7月29日	10分	セーフティーレクチャー	新型インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	430
18	8月25日	10分	セーフティーレクチャー	院内感染対策について	有山記念講堂	全職員	545
19	9月4日	半日	広島国際大学実習	感染対策の基礎・院内の連携	院内	広島国際 大学学生	2
20	9月4日	60分	医事課講習会	新型インフルエンザ 感染予防について	10号館1階 110号室	医事課職員 他、委託職員	109
21	9月7～10日	各日終日	順天堂医療看護学部 感染対策課題実習	感染対策・感染管理について	院内	医療看護学部 4年生	4
22	9月14日 ～17日	各日終日	順天堂医療看護学部 感染対策課題実習	感染対策・感染管理について	院内	医療看護学部 4年生	4
23	9月28日	10分	セーフティーレクチャー	新型インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	395
24	10月6日	180分	医学部学生 病院感染対策実習	適切な手洗いと防護装備使用の基本動作 習得	9号館2階講義室 生物化学系実習室	医学部4年生	96
25	10月30日	10分	セーフティーレクチャー	新型インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	283
26	11月27日	10分	セーフティーレクチャー	新型インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	246
27	12月21日	10分	セーフティーレクチャー	新型インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	335
28	1月28日	10分	セーフティーレクチャー	新型インフルエンザについて	有山記念講堂	全職員	325
29	2月22日	30分	看護助手 集合研修	看護助手に必要な感染対策について	有山記念講堂	看護助手	100
30	2月25日	10分	セーフティーレクチャー	院内における針刺し事故について、他	有山記念講堂	全職員	286
31	3月17日	10分	セーフティーレクチャー	院内における針刺し事故について、他	有山記念講堂	全職員	203
e-learning			セーフティーレクチャー	院内感染対策について	-	全職員	1,612

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	各所属長、 院長 新井 一
閲覧担当者氏名	各所属長、山岡 喜保 (管理課長)、井田 豊太郎 (医事課長) 大島 純子 (診療録管理室係長)
閲覧の求めに応じる場所	診療録閲覧室、会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2 件	
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	50.66 %	算定期間	平成21年 4月 1日～平成22年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		25,534 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,522 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,411 人
	D: 初診の患者の数		77,176 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 総則 2. 組織体制 3. 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 4. 安全管理のための職員研修の実施 5. 医療事故発生時の対応方法 6. 患者相談窓口の設置 7. 安全な医療を提供するための院内規則・手順 8. 医療従事者と患者及びその家族間との情報共有 他	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 24 回
・ 活動の主な内容：別紙マニュアル参照 I. 医療安全管理指針 P. 1～P. 18 II. 医療事故防止体制 P. 19 VI. 医療安全に関する報告の流れ P. 24	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 14 回
・ 研修の主な内容： I. 医療安全管理指針 4. 安全のための職員研修の実施 P. 13～P. 14	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： I. 医療安全管理指針 3. 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 P. 9～P. 12 II. 医療安全防止体制 P. 19 VI. 医療安全に関する報告の流れ P. 24	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (7 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専任 (2) 名 兼任 (3) 名 ・ 活動の主な内容：別添マニュアル参照 I. 医療安全管理指針 P. 1～P. 18 II. 医療事故防止体制 P. 19	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

I 医療安全管理指針

1. 総 則

1) 安全管理指針の目的

医療は、患者と医療従事者の信頼関係、医療に対する信頼の下で、患者の救命や健康回復を最優先として行われるべきものであり、患者を中心とした安全で質の高い医療を提供しなければならない。この実行のために全ての医療従事者は医療安全に取り組むものとする。このため本指針は、順天堂大学医学部附属順天堂医院における医療安全管理に関する基本方針を定めるとともに、院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について定めることを目的とする。

2) 医院における医療安全管理の基本方針

安全な医療を提供するためには、医療従事者一人ひとりが患者の安全を守る意識を持つことが不可欠ではあるが、近年の医療の高度化・複雑化等を背景に、医療従事者個人の努力に依存した医療安全管理は困難になってきている。このため、当院においては医療安全管理をシステム化し、院長、医療安全管理を統括する医療安全管理室室長、医療安全管理者、医療安全管理委員会、リスクマネジメント全体委員会を中心として有機的な体制を構築し、総合的管理の一環として組織横断的に取り組む。また、常により質の高い安全な医療提供体制を構築するのみならず、患者・家族に対する接遇に留意し、計画・実施・評価・改善の一連の過程において継続的な見直しを行うことにより、医療現場の状況の変化に適切かつ迅速に対応した医療安全管理を実施する。さらに、医療安全管理に資する情報を職員全体で共有し、組織における安全文化を醸成するため、発生した医療事故、ヒヤリ・ハット事例情報等の分析結果や、医療安全管理委員会等で検討・決定された事故予防対策等を、速やかに職員にフィードバックするとともに、各種の関連する研修会を通じて、医療安全管理に関する職員の教育や啓発に努めるものとする。

3) 医療安全管理における医院職員の責務

(1) 院長の責務

院長は、医院における最高責任者として、医療安全管理に必要な組織体制を整備し、これを指揮・監督する。具体的には、本指針に基づいて円滑かつ効果的に医療安全管理が遂行できるよう、医療安全管理活動の具体的目標や予算の策定、職員の能力や適性に応じた人事・処遇、職場環境の整備等を行い、医院を一つの組織体として適正に管理する。

(2) 個々の職員の責務

全ての職員は、患者の安全を最優先し、安全に医療を提供する責務があることを十分に認識して業務に当たる。このため、職員は医療従事者としての基本的な倫理観や知識・技術の継続的な習得を行い、患者の安全確保に努める。また、職員は、チーム医療の担い手としての役割と責任を果たすために、日ごろから緊密な協力体制を築き、本人の医療安全管理活動へ積極的かつ主体的に参加する。

2. 組織体制

医院における医療安全管理ならびに事故発生時の緊急対応について、医院の組織全体が効果的・効率的に機能するように、以下の役職および組織等を設置する。

1) 医療安全推進部(2007年4月組織変更)

病院の安全管理の強化のため、平成19年4月医療安全推進部が発足した。医療安全推進部は、医療安全管理室・感染対策室・健康管理室から構成されている。検討案件の性質により3室が適宜連携して組織横断的に問題解決にあたる。

2) 医療機器安全管理責任者(2007年4月、医療法改正により配置)

医療機器安全管理責任者1名を配置し、放射線担当者1名、医療機器担当者1名、医療材料担当者1名が協力して医療機器の安全使用に関する業務を担う。

3) 医薬品安全管理責任者(2007年4月, 医療法改正により配置)

医薬品安全管理責任者1名を配置し, 医薬品の安全使用に関わる業務を担う。

(1) 医療安全推進部・各管理室の構成

① 医療安全推進部・各管理室には以下の各号に掲げる者とする。

- i 管理室長
- ii 管理室副室長
- iii 医療安全管理者(医療安全管理室)
- iv 事務職員
- v その他必要な職員

② 室長, 副室長, 医療安全管理者は院長が任命する者をもって充てる。

③ 医療安全管理室, 感染対策室, 健康管理室の職員は院長が任命する。

(2) 医療安全管理室の役割

医療安全管理室は, 次に掲げる各号についてその役割を担う(感染対策室, 健康管理室の役割の詳細は各室マニュアルに記載)。

- ① 医療の安全を確保するための改善方策に関すること
 - 「インシデントレポート」による情報の収集・分析
 - 医療事故予防策, 再発防止策の立案, 実施, 評価および見直し
 - 安全な医療提供のためのガイドラインやマニュアルの策定に関すること
 - 患者からの苦情・要望等の分析および医療安全管理への活用
- ② 医療安全管理のための職員への企画・運営および院内広報等の企画・実施
- ③ 医療事故発生時の対応に関すること
 - 診療録・看護記録等への記載状況についての確認・指導
 - 患者への診療や説明等の対応状況についての確認・指導
- ④ 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること
 - 医療安全管理委員会に対する議題の提案

- 医療安全管理委員会の資料作成、議事録作成等の庶務

⑤ 医療安全管理に関する院内の連絡調整

⑥ その他医療安全管理に関する業務

4) 医療安全管理委員会

(目的)

医院における医療事故防止の取り組みを効果的に推進し、医院全体および各部門における医療事故防止体制の整備を図るために必要な事項ならびに院長の諮問事項を審議献策し、医療従事者への周知を図るとともに実施状況を必要に応じて調査、見直しを行う。

(委員会の構成)

① 医療安全推進部長

② 医療安全管理室長

③ 感染対策室長

④ 医療安全管理室副室長

⑤ 医療安全管理者

⑥ 総医局長

⑦ RM 全体委員会委員長

⑧ 看護部長

⑨ 薬剤部長

⑩ 事務部長

⑪ その他委員会が必要と認めたもの若干名

(委員会の開催)

原則として月 1 回開催する。

(委員会の出席)

委員会へ出席できない場合は必ず代理出席をする。

(情報の取扱い)

① 委員は、その職務に関して知り得た情報について、既に公表されているものを除き、院長の許可なく他に漏らしてはならない。

② 委員は、患者のプライバシーを特に尊重しなければならない。

③ 情報の取扱いは関係する職員すべてに適用されるものとする。

5) リスクマネジメント全体委員会

(目的)

医院全体の安全管理に関する連絡・意見交換を行い、各部門における医療安全活動および問題点の報告等により、適正かつ効率的に事故防止を図る。

(委員会の構成)

委員長：1名

副委員長：医療安全管理者 他2名

RM委員：医師，薬剤師，看護師，放射線・臨床検査技師，事務職員など，各診療科・部門より若干名とし，部門から選任された職員から責任者を置く。その他委員会が認めたもの若干名

(委員会の開催)

委員会は原則として月1回開催する。

(委員会の出席)

委員会へ出席できない場合は必ず代理出席をする。

(小委員会の設置)

委員会は必要に応じて小委員会を設置することができる。小委員会の委員長は委員会の委員長が任命する。

(小委員会の任務)

各診療科・部門から選任されたRM委員は、必ず小委員会に所属し、医療事故の原因、防止方法に関する検討・提言、医療安全管理委員会、委員会活動に対する提案を行う。

(RM委員の役割と業務)

- ①部門から選任されたRM委員は、部門の管理者を補佐し、医療安全対策を推進する。
- ②部門における「医療安全に関する報告」の提出促進・収集・分析。
- ③部門の事故予防策，再発防止策の検討・推進。
- ④途中就任した医療従事者には、安全指針を周知する。
- ⑤病院全体の医療安全管理に関する事項を当該部門の委員会等に報告し、各医療従事者に周知する。周知状況を医療安全管理室に報告する。

6) 医療安全を推進する担当者(リスクマネジャー)

(1) リスクマネジャーの配置

各部門・部署の管理者を補佐し、医療安全管理活動を推進する者として、各部門、部署にリスクマネジャーを配置する。リスクマネジャーは各部門・部署の責任者が任命する。

(2) リスクマネジャーの役割

リスクマネジャーは、次に掲げる各号についてその役割を担う。

- ① 各部門・部署における「インシデントレポート」の提出の促進・収集・分析。
- ② 各部門・部署における事故予防策、再発防止策の検討・推進。
- ③ 医院全体の医療安全管理に関する各部門・部署の意見のとりまとめ、提案。
- ④ 各部門・部署の職員等への周知と周知状況の把握。

(3) リスクマネジャー小委員会

医療安全管理委員会、医療安全管理室と連携して、各部門・部署における安全対策を円滑に進めるための討議を行うことを目的として、リスクマネジメント小委員会および全体委員会を定期的に開催する。

7) SE 対策チーム

(チームの構成)

委員長：医療安全推進部長

委員：医療安全管理室長、副室長、医療安全管理者、感染対策室長、他1名

医師：内科系、外科系、精神・神経系若干名 その他、チームが必要と認めたもの 若干名

(チームの業務内容)

院長、関連診療科または部門の求めにより、医療事故等の原因究明が適切に実施されるよう早急に調査・分析を行い、患者や家族への診療や説明などの対応状況ならびに診療録や看護記録などへの記載状況について確認・指導する。

8) SE 対策委員会

(委員会の構成)

SE 対策チーム，関係診療科医局長，担当医，関係看護師長，看護師，管理課職員，その他随時

(委員会の開催)

重大な問題が生じた場合，または患者や家族からの苦情により，当該診療科・部門のみでは対応が難しい場合に随時開催する。

(委員会の審議)

事故等の原因究明，対応策等を策定し，必要があれば医療安全管理委員会で協議し，事例調査委員会に報告するとともに，医療安全対策への活用を行う。

9) 事例調査委員会

(委員会の構成)

委員長：院長

委員：副院長，総医局長，医療安全推進部長，医療安全管理室長，医療安全管理者，感染対策室長，事務部長，顧問弁護士，管理課長，その他随時

担当部署：教授，先任准教授，医局長，担当医，担当師長，その他随時

(委員会の業務内容)

- ① 重大事故発生後，関連部署職員が集まり事故の概要，原因について時系列で詳細に分析し，患者・家族への対応，外部機関への対応を早急に検討する。
- ② 事故発生の診療科等に医療事故防止の具体的指導を行う。

10) 外部調査委員会

(委員会の目的)

医療安全推進部長の進言に基づき，院長の求めにより，重大事故発生後，当院の外部から公正・中立かつ客観的な視座によって医療事故内容の検討と評価を行い，もって当院の医療安全管理体制および医療の質の向上に資することを目的とする。

(委員会の構成)

- ①発生した医療事故の医療行為が分析できる専門医
- ②事例調査委員会の調査手法，論点を客観的に評価できる弁護士・法律家など
- ③科学的に事故原因を究明できる薬剤師・看護師・臨床工学技士・診療放射線技師など
- ④医療事故を多角的方面より分析できるジャーナリストなど
- ⑤その他，病院長が指名した者

(委員会の業務内容)

- ①当該事例に関する情報の収集
- ②当該事例に関する医療内容の検討・評価
- ③当該事例に関する外部評価報告書の作成
- ④医療安全管理体制および医療の質の向上に関する提言
- ⑤その他，本委員会の目的を達成するために必要なこと

11) 危機管理・職業倫理委員会(2009年4月発足)

(委員会の構成)

委員長：病院管理学教授

委員：個人情報管理委員長，接遇マナー・職業倫理委員長，危機管理委員長，薬剤部長，看護部長，事務部長，総医局長，RM全体委員長，臨床研修センター運営委員長，感染対策室長，医事課長，サービス課長，本郷地区情報センター，警備課長，医療安全管理者

危機管理・職業倫理委員会は「個人情報管理委員会」「接遇マナー・職業倫理委員会」「危機管理委員会」の3委員会で構成され，それぞれに委員長と委員を配置する。

(委員会の開催)

「個人情報管理委員会」「接遇マナー・職業倫理委員会」「危機管理委員会」の各委員会は毎月1回，委員会を開催し，リスク情報の収集，病院への影響度の評価，対策等を行い，2ヶ月に1回，3委員会を統合した会議を開催する。

3. 医療の安全確保を目的とした改善のための方策

医療の安全確保を図るためには、各々の業務を医療安全の観点から見直し、その結果に基づいて当院全体で医療安全管理に取り組むべき必要がある。標準化、統一化、規則化の推進、正確で効率的な情報管理を促進するとともに、策定された安全対策を計画・実施・評価という一連の過程から、さらなる改善活動を通じて常に見直していく必要がある。当院における医療事故等の報告体制は、こうした改善活動の一環として重要である。さらに、当院の医療安全管理活動を評価し、改善につなげていくために、内部評価、外部評価を実施する。

1) 医療事故等に関する報告制度

(1) 報告制度の目的

医院では、医療事故につながる可能性のある問題点を把握して効果的な安全対策を講じるため、全職員を対象にインシデントレポート事例の報告を制度化し、その収集を促進するとともに、収集した情報を活用して組織全体で継続的な業務改善に取り組む。

(2) 報告制度の対象とする事例

報告制度で対象とする事例は、以下のとおりとする。

① 医療事故(アクシデント)

医療に係わる場所で、医療の全過程において発生するすべての人身事故一切を包含し、医療従事者が被害者である場合や廊下で転倒した場合なども含む。

② ヒヤリ・ハット(インシデント)

日常診療の場で、誤った医療行為などが患者に実施される前に発見されたもの、あるいは、誤った医療行為などが実施されたが、結果として患者に影響を及ぼすに至らなかったもの。

(3) 報告経路と報告方法

① 医療事故ならびにヒヤリ・ハット事例を体験または発見した職員は、その概要をインシデントレポートシステムに入力し、翌日までに上司および当該リスクマネージャーに報告する。

- ②当該リスクマネジャーは、提出された報告の内容を確認し、当該部門・部署の管理者に報告する。
- ③部門・部署の管理者は必要に応じ、リスクマネジャーに調査・分析を指示する。
- ④リスクマネジャーは、調査・分析の結果を部門・部署の管理者及び医療安全管理室に報告する。報告は24時間以内に行う。
- ⑤医療安全管理室は、一定期間内に提出されたインシデントレポートを集計し、所定の期日ごとに医療安全管理委員会およびリスクマネジャー全体委員会で報告する。

(4) 重大な医療事故の場合の報告

重大な医療事故が発生した場合には、以下に定める手続きに従って報告を行う。

①対象となる医療事故

- i 当該行為によって患者が死亡または死亡に至る可能性がある場合
- ii 当該行為によって患者に重大もしくは不可逆的傷害を与え、または与える可能性がある場合
- iii その患者等から苦情を受けた場合

②報告経路と報告方法

- i 重大な医療事故発生時には、直ちに当該リスクマネジャーに報告する。報告を受けたリスクマネジャーは、医療上必要な指示を与え、各部門・部署の責任者を經由して速やかに院長および医療安全管理室長に報告する。また、緊急を要する場合にはひとまず口頭で報告し救命措置の遂行に支障を来たさない範囲で遅滞なくシステムによる報告を行う。
- ii 患者の生死に関わる重大かつ緊急な場合は、上記経路を省略して院長に直接報告することができる。

(5) インシデントレポートの分析

医療安全管理室は、報告されたインシデントレポートから当該部門・部署担当のリスクマネジャーと連携し、事例の分析・対処にあたる。複数部門・部署間に関連する問題、本院全体の医療の質に関わる問題などは医療安全管理室ならびに医療安全管理者が中心となって事例の分析にあ

たる。医療安全管理室は事例分析と策定した事故予防策案ならびに再発防止策案を医療安全管理委員会に報告する。

(6) 事故予防策・再発防止策の検討と決定

医療安全管理委員会は医療安全管理室からの報告に基づいて、分析結果の妥当性、リスクの重大性、リスク予測の可否、システム改善の必要性、事故予防策ならびに再発防止策等について協議する。

(7) 事故予防策・再発防止策の職員への周知徹底実施

医療安全管理室は、医療事故およびヒヤリ・ハット事例の分析・実施・評価結果や、医療安全管理委員会の協議に基づいて決定された事故予防策・再発防止策について、リスクマネジメント全体委員会で報告した後、各部門・部署の責任者およびリスクマネジャーを通じて全員に周知・徹底する。また、定期的な職員研修の実施、ニュースレター等により、周知徹底を図る。

(8) 事故予防策、再発防止策の実施状況の調査・評価と継続的な改善活動

医療安全管理室は、事故予防策や再発防止策の実施状況を定期的に調査・評価し、必要に応じた見直しを継続的に行う。

なお、事故予防策や再発防止策の調査・評価結果や見直しに関する、医療安全管理委員会への報告等の手続きについては、「(5) インシデントレポートの分析」、「(6) 事故予防策・再発防止策の検討と決定」に準ずる。

(9) リスクマネジャーとの連携

医療安全管理室は、インシデントレポートの分析・評価、事故予防策・再発防止策の検討およびその実施状況の調査等にあたっては各部門・部署のリスクマネジャーと連携してこれを行う。

(10) 診療録への記載

医療事故が発生した場合には、その内容と、患者や家族への説明など事故発生時の対応状況を診療録、看護記録等に正確に記載する。

(11) 報告者の保護

インシデントレポート報告者に対し、報告があった事実のみで、正当な事由なく不利益な処分を行わない。

(12) 守秘義務

医療事故やヒヤリ・ハット事例について本報告制度によって職務上知りえたものは、その内容を正当な事由なく他の第三者に告げてはならない。

2) 医療の安全確保を図るためのその他の方策

(1) 標準化・規則化等の推進

医療の質の向上と安全性を高めるためには、医療行為等の作業手順の統一化、入院時診療計画(クリニカルパス)の活用、物品の保管や配置等の統一化等によって標準化を図るとともに、院内における業務活動については可能な限り規則化し、その遵守を徹底することが重要である。また、高度化・複雑化する医療において、適切な診療情報管理、情報伝達を行うため、情報管理手法の統一化や、情報システムの導入・活用を推進する。

医院では、業務活動の標準化、規則化等を推進するため、各部門・部署における業務マニュアルを整備するとともに、医療安全管理にとって重要な規則や手順等は院内規則・手順として明記し、その内容の周知徹底を図る。また各業務マニュアルおよび院内規則・手順は、適宜評価・見直しを行い、現場の安全と医療の質をより向上させるものとしなければならない。

(2) 医療安全管理活動の評価

① 内部評価活動

医療安全管理室は、医院における医療安全管理活動の成果を評価し、一層の改善を行うため、日常的な院内の巡回等を活用して、以下の事項について内部評価活動を行う。

- i 診療録や看護記録等の記載状況
- ii 業務マニュアル等の整備、見直し状況
- iii 本指針および各種マニュアルの遵守状況
- iv ヒヤリ・ハット、医療事故報告の活用状況

② 外部評価の活用

当院の安全管理上の問題点について、外部からの評価によって明らかにすることを目的として、(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価、他の医療機関との相互評価など、第三者による評価を積極的に活用する。

4. 安全管理のための職員研修の実施

医療安全管理に関する基本的な考え方や、医療事故予防・再発防止の具体的な方策を職員に周知徹底することにより、個々の教職員の安全に対する意識を高め倫理意識や安全文化を醸成し、安全に業務を遂行するための能力の向上を図ることを目的として職員研修を実施する。

1) 医療安全管理室の役割

(1) 研修の実施

医療安全管理室は、医療安全管理に関する以下の研修を計画し、実施する。

- ① 医療機関全体に共通する医療安全管理に関する研修
目的：医療安全管理に関する基本的な考え方を理解するとともに、リスク感性および医療安全に関する個々の責務に関する啓発を図る。

受講対象：全職員

開催回数：年 11 回

- ② 新規採用者に対する医療安全管理に関する研修
目的：病院の理念と医療安全管理に対する基本的な考え方を理解するとともに、医療安全を確保するために遵守しなければならない事項に関する知識を修得する。

受講対象：新規採用者

開催回数：年 3 回(新規採用者研修の全体研修の一部として実施)

③ 指導者の研修

- 目的：指導者の役割を理解し、具体的な活動を行う上での医療安全の知識、技能を修得する。

受講対象：指導者

開催回数：年 2 回程度

④ 臨床研修医の研修

- 目的：医師の業務を理解し、具体的な業務を行う上でのモラル、知識、技能を修得する。

受講対象：臨床研修医、医師

開催回数：年 3～4 回程度（全該当者が受講できるように調整）

(2) 各部門・部署への支援

医療安全管理室は、各部門・部署が医療安全管理に関する研修を実施する際には、必要に応じて研修計画への参加や講師派遣などの協力を行うとともに、各部門・部署における研修の実施状況を把握し、積極的な研修実施を促す。

(3) 研修参加の促進

医療安全管理室は、リスクマネージャーと連携し、研修への職員の積極的な参加を促す。

2) 各部門・部署のリスクマネージャーの役割

(1) 研修の実施

各部門・部署は、その管理責任において、職員の職種、部門・部署、職位にふさわしい安全管理能力を得られるよう、以下のような研修を計画し、実施する。

① 新人研修

新規採用者に対する研修に加え、新人に対しては、各部門・部署ごとに、医師、看護師などが専門業務を行う上で必要とされる基本的な知識・技術の実践を含めた研修を行う。

② 各部門・部署単位での医療安全管理に関する研修

各部門・部署は、専門業務の理解、安全管理の徹底、業務改善への意識付けを行うための研修を実施する。配置転換に伴う転入者に対する研修を各部門・部署単位で必要に応じて実施する。

(2) 外部研修への派遣

各部門・部署は、職員の職種、部門・部署、職位にふさわしい安全管理能力を得られるよう、必要に応じて外部研修の活用を行う。

3) 医療安全管理者、医療安全管理室職員の研修

院長は医療安全管理者、医療安全管理室職員が医療安全管理に必要な能力確保を図るために、外部研修の派遣など必要に応じて学習の機会を提供する。また医療安全管理者、医療安全管理室職員は、自ら医療安全管理に関する情報を幅広く収集し、院外での研修会等に積極的に参加すること

により、知識・技能の向上に努める。医療安全管理者は、院内・外の研修や情報収集等により、医療事故やヒューマンエラーに対する正しい知識を持ち、安全管理に関わる病院の管理を適正に行うよう努める。

4) 研修の実施記録

医療安全管理室および研修を実施した部門・部署は、医療安全管理に係わる職員研修の実施内容を所定の方法で記録する。その記録は医療安全管理室で保管する。

5. 医療事故発生時の対応方法

医療事故発生時には、患者の救命を最優先して、誠心誠意治療に専念するとともに、事故の内容を明らかにし、医療従事者としての説明責任を適切に果たすために、患者・家族等に誠実に説明する。また、事故の再発防止策を早期に検討し職員に周知徹底する。

1) 初動対応

(1) 患者の安全確保

医療事故が発生した場合は、患者の安全確保を最優先課題とし、医師、看護師等の連携の下、迅速な救命救急処置を行う。事故発生部署の職員だけでは十分に対応できない場合は早急に他の診療科や専門医の応援を求め、病院の総力をあげて対応する。他院への転送が必要な場合は、患者・家族に承認を得た上で速やかに転送する。

(2) 患者に使用した薬剤・器具等の保管

事故発生前後に当該患者に使用した薬剤、注射器等は、事実確認および事故発生要因の検討に活用するために現状を保存しておく必要があるため、廃棄せず、保管する。また、使用した医療機器等の設定値についても、同様の理由により現状を保存する。現状保存の期間、方法については院長が医療安全管理者および事故発生部門・部署の責任者と相談し、決定する。

(3) 事実経過の正確な記録

医療事故発生前後における事実経過については、事実確認および事故発生要因の検討に活用するため、診療録、看護記録等に正確に記録する。

2) 医療事故の報告

医療事故発生時の報告については、「3. 1) 医療事故等に関する報告制度」に定める手続きによる。

3) 患者・家族等への説明

(1) 患者・家族等への説明

事故発生後、救命措置の遂行に支障を来さない限り可及的速やかに、患者本人・家族等への説明を担当する職員を決定し、事故の状況、現在実施している回復措置、その見通し等について、誠意を持って説明する。患者・家族等の要望および患者の状態の変化等に応じて、その時々状況が理解できるように追加説明を行う。尚、説明時は担当職員と記録者の2名以上で対応する。

(2) 説明内容の記録

説明を行った事実および説明の内容については、説明を行った者が診療録等に明記しておく。また、同席者が記録した「病状治療方針説明記録」は診療録に綴じる。

4) 警察への届出

医療過誤により死亡または傷害が発生した場合、またはその疑いがある場合は、院長が所轄警察署(本富士警察署)に届出を行うことがある。

5) 事故の再発防止

医療事故発生後、医療安全管理室、医療安全管理委員会等において、事故の再発防止について検討し、再発防止策を策定し、職員全員に徹底する。

6) 事例調査委員会の設置・招集

院長は、自らまたは医療安全管理委員会の審議に基づき医療事故の事実調査、患者・家族等への対応、外部関係機関への対応、医事紛争への対応、再発防止策の検討等を目的として、必要に応じて事例調査委員会を設置・招集することができる。

7) 重大事故発生時の施設内職員および他の患者への対応

重大事故発生後、速やかに組織としての方針を決定し、全職員に事故発生の実態と経過を説明することを基本とする。説明はあらかじめ準備した資料に基づいて行う。その際、部署・患者・事故当事者等が特定されないように十分留意する。

他の患者への対応は、説明する範囲(病室、当該部署、施設全体)と内容を組織の対応方針に基づき決定する。

8) 重大な事故に関わった職員への対応

事故により重大な結果を招いた場合、当事者となった職員へは適切な配慮や長期的な支援が必要である。医療のプロセス・システムには、誰もが事故当事者となりうる危険性が潜んでいる。個人を責めるのではなく、医療のプロセス・システム全体に策を講ずることで再発防止を図る、という考え方を基本とする。重大事故に関わった職員は、院長及び所属長が必要と判断した場合にメンタルクリニックを受診することができる。その後のサポートは人・組織・機能を活かした支援体制を整え、当事者の状況に応じた支援内容を検討し、実施する。

6. 患者相談窓口の設置

患者から寄せられる苦情等について迅速に対応するとともに、患者の意見や要望を聞き、医院の医療安全管理に積極的に活用し、病院運営全般に反映させるため、当院の情報公開に資するため、相談窓口を設置し対応する。

1) 患者相談窓口の体制

患者相談窓口を設置し、患者・家族等からの相談に対応する担当者を配置する。

2) 患者相談窓口の業務

患者相談窓口の存在を患者・家族に徹底するとともに、相談を行ったことにより患者や家族などが不利益を受けないよう配慮しなければならない。

3) 患者相談窓口に関する院内掲示

患者相談窓口担当者は、患者相談窓口の活動の趣旨、設置場所、対応時間等について、病院受付、待合室、病室等における掲示や、入院時の案内等を通じて、患者・家族等に幅広く案内するよう努める。

7. 安全な医療を提供するための院内規則・手順

医院では安全管理のための重要な規則や手順を以下のように決定し周知している。チーム医療の中で、これらの規則・手順が尊重され守られ、また評価されることは、患者安全を確保する上で極めて重要である。

- 患者確認のルール
- 誤薬防止のための基本ルール
- 輸血に関する事故予防マニュアル
- 化学療法実施マニュアル
- インスリン指示の標準
- 転倒・転落事故予防マニュアル
- 静脈血栓塞栓症予防マニュアル

8. 医療従事者と患者及びその患者間との情報の共有

患者の病状、治療方針、リスク及び合併症等を患者及びその家族等に必要かつ十分に説明をして同意を得ること。さらに説明を受けることを希望する患者及び家族等に対しては、積極的に情報共有を行い、医療従事者と患者及びその家族等との情報共有を図ることに努める。

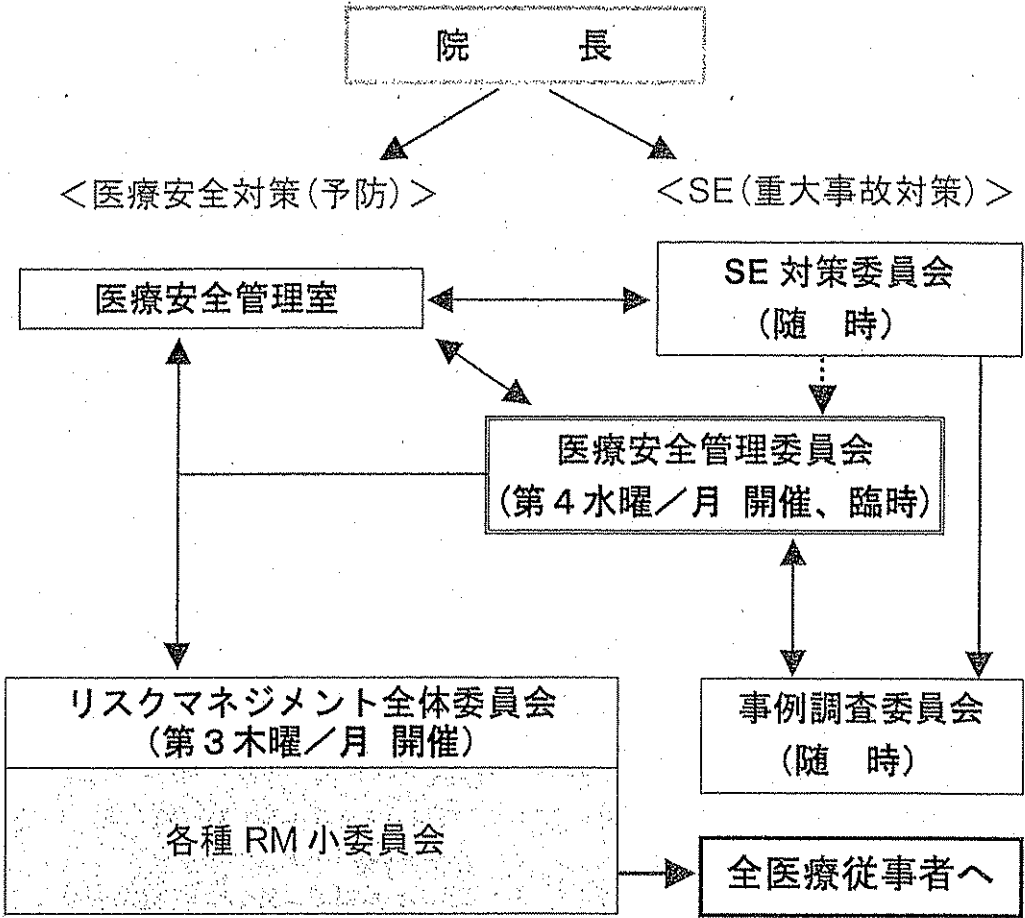
本指針は、患者及び家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じる。また、本指針についての照会には、医療安全管理室が対応する。

9. 付 則

医療安全管理委員会は、少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ、改正を検討する。

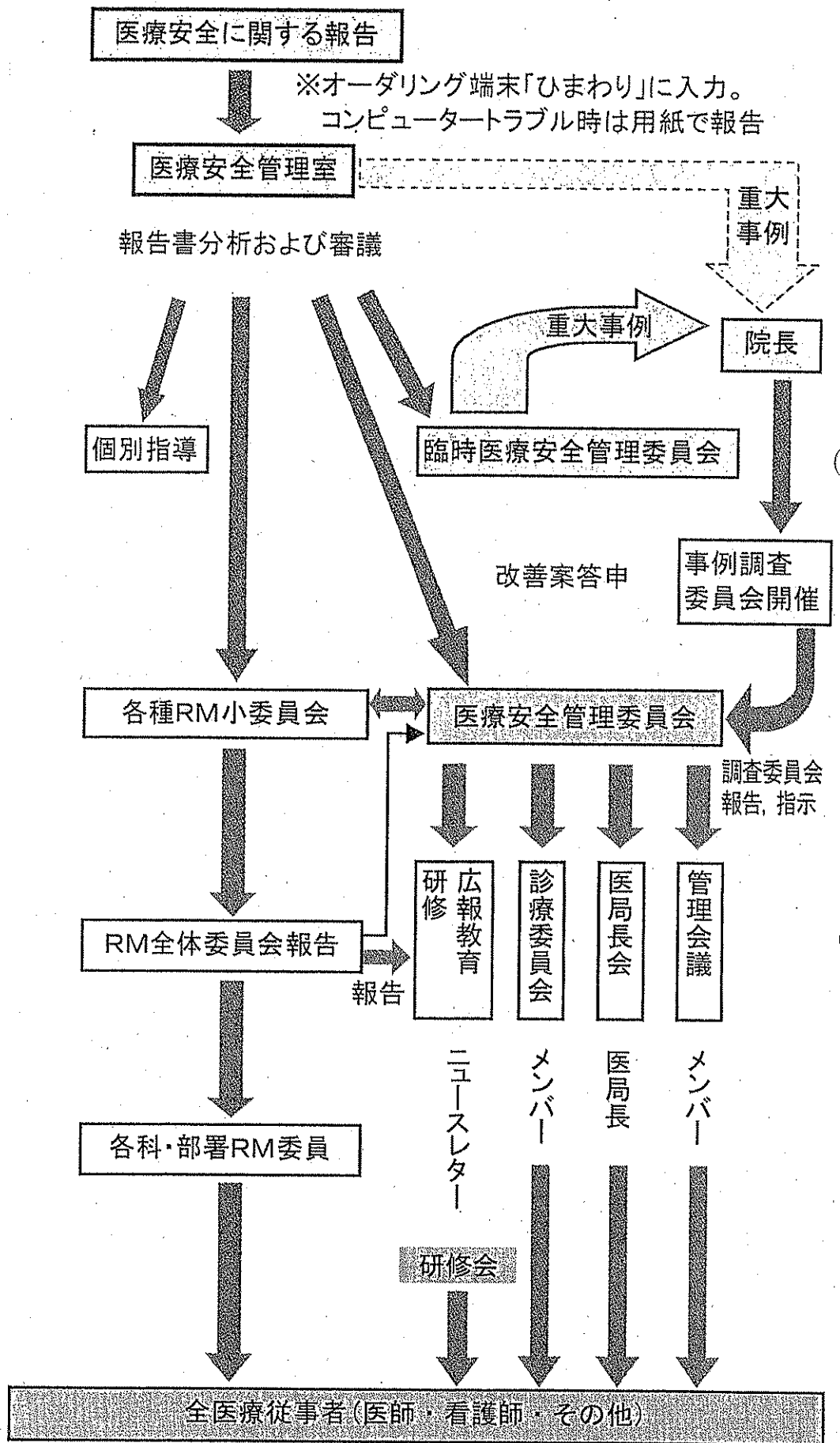
(2007.7.25) (2008.8.27) (2009.2.25) (2009.4.22)

Ⅱ 医療事故防止体制



注)
RM : Risk Manager or Risk Management
SE : Sentinel Events

VI 医療安全に関する報告の流れ



VII 影響レベル（報告時点）

医療安全に関する報告に収載

	レベル	傷害の 継続性	傷害の 程 度	内 容	分類
イン シ デ ント	0			エラーや医薬品・医療用具の不 具合が見られたが、患者には実 施されなかった、患者へは実害 がなかった(何らかの影響を与 えた可能性は否定できない)	
	1	なし			
	2	一過性	軽 度	処置や治療は行わなかった(患 者観察の強化, バイタルサイン の軽度変化, 安全確認のための 検査等の必要性は生じた)	
	3a		中等度	簡単な処置や治療を要した(消 毒, シップ, 皮膚の縫合, 鎮痛 剤投与等)	
ア ク シ デ ント	3b		高 度	濃厚な処置や治療を要した(バ イタルサインの高度変化, 人工 呼吸器の装着, 手術, 入院日数 の延長, 外来患者の入院, 骨折 など)	報 告 入 力 必 須
	4a	永続的	軽度～ 中等度	永続的な障害や後遺症は残っ たが, 有意な機能障害や美容上 の問題は伴わない	
	4b		中等度 ～高度	永続的な障害や後遺症は残り, 有意な機能障害や美容上の問 題は伴う	
	5	死亡		死亡(現疾患の自然経過による ものを除く)	
	その他				

平成21年度「セーフティーレクチャー」開催内容一覧

開催日時(場所)	対象	プログラム	参加人数
4月21日(火) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 健康診断について 講師 渡邊 育海(健康管理室保健師) 2. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 3. 「当院の感染対策室について 感染対策指針について」 講師 佐藤 美砂(感染対策室 ICP) 4. 「医療者の接遇マナーについて」 講師 大塚 宜一(接遇マナー・職業倫理委員長)	292
4月27日(月) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 健康診断について 講師 渡邊 育海(健康管理室保健師) 2. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 3. 「豚インフルエンザについて」 講師 堀 賢 (感染対策室長) 4. 「医療者の接遇マナーについて」 講師 大塚 宜一(接遇マナー・職業倫理委員長) 5. 「GCPと臨床研究の指針について」 講師 佐瀬 一洋(GCPセンター長)	404
4月30日(木) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 健康診断について 講師 渡邊 育海(健康管理室保健師) 2. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 3. 「豚インフルエンザについて」 講師 佐藤 美砂(感染対策室 ICP) 4. 「医療者の接遇マナーについて」 講師 大塚 宜一(接遇マナー・職業倫理委員長) 5. 「GCPと臨床研究の指針について」 講師 佐瀬 一洋(GCPセンター長)	421
5月29日(金) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. AEDと除細動機のメンテナンスについて 講師 鈴木 廣美(臨床工学室 技士長) 3. 新型インフルエンザについて 講師 佐藤 美砂(感染対策室 ICP)	407
6月30日(火) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. AEDと除細動機のメンテナンスについて 講師 鈴木 廣美(臨床工学室 技士長) 3. 新型インフルエンザについて 講師 堀 賢 (感染対策室長) 4. メールによる情報漏えいの防止について 講師 吉田 剛(本郷地区情報センター) 5. 情報システムセキュリティ ウイルス感染について 講師 山本 英男(放射線部)	415
7月29日(水) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時 ↓ 午後5時30分 ↓ 午後6時30分	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. AEDと除細動機のメンテナンスについて 講師 鈴木 廣美(臨床工学室 技士長) 3. 新型インフルエンザについて 講師 堀 賢 (感染対策室長) 4. 医療情報システム運用管理要領について 講師 菊地 健一(本郷地区情報センター) 5. 医療者の接遇マナーについて 講師 大塚 宜一(接遇マナー・職業倫理委員長)	430

7	8月25日(火) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	セーフティレクチャー基礎講習会 1. 医療安全(個人情報含む)について 講師 川崎 志保理(医療安全管理室長) 2. 院内感染対策について 講師 堀 賢(感染対策室長) 3. 医療機器安全管理について 講師 鈴木 廣美(臨床工学室 技士長) 4. 医薬品安全管理について、臨床研究に関する倫理指針について 講師 佐瀬 一洋(医薬品安全管理責任者、GCPセンター長) 5. 健康管理について 講師 矢崎 育海(健康管理室保健師)	545
8	9月28日(月) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. 個人情報保護について 講師 川崎 志保理(個人情報保護管理者) 3. 新型インフルエンザについて 講師 堀 賢(感染対策室長)	395
9	10月30日(金) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. 院内における暴言・暴力について 講師 高野 元伸(管理課渉外担当) 3. 新型インフルエンザについて 講師 佐藤 美砂(感染対策室)	283
10	11月27日(金) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. 個人情報保護について 講師 川崎 志保理(個人情報保護管理者) 3. 医療者の接遇マナーについて 講師 大塚 宜一(接遇マナー・職業倫理委員長) 4. 新型インフルエンザについて 講師 堀 賢(感染対策室長)	246
11	12月21日(月) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. 医薬品安全管理について 講師 馬場 喜弓(薬剤部) 3. 新型インフルエンザについて 講師 堀 賢(感染対策室長)	335
12	1月28日(木) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. 医薬品安全管理について 講師 馬場 喜弓(薬剤部) 3. 新型インフルエンザについて、その他 講師 堀 賢(感染対策室長)	325
13	2月25日(木) (有山記念講堂) 午後4時 午後5時30分 ↓ ↓ 午後5時 午後6時30分	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. 医薬品安全管理について 講師 馬場 喜弓(薬剤部) 3. 院内における針刺し事故について、その他 講師 毛利 繭子 佐藤 美砂(感染対策室)	286
14	3月17日(水) (有山記念講堂) 午後4時 ↓ 午後5時	全教職員	1. 「医療情報システムについて」 講師 本郷地区情報センター 2. 当院における暴言・暴力・悪質クレームの発生状況と対応策について 講師 高野 元伸(管理課渉外担当) 3. 院内における針刺し事故について、その他 講師 毛利 繭子(感染対策室)	203

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 院内感染に関する基本的な考え方2) 感染対策委員会の組織に関する基本的事項3) 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針6) 患者等に対する当院の院内感染対策指針の閲覧に関する基本方針7) その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 病院内で発生した感染症の分布とその対応について、院内ガイドライン・マニュアルに従い、感染対策室からの現場指導を受けながら、有効性の確認や検証を実施2) 針刺し切創について、院内の届出書の集計結果を基に改善策を検討3) MRSA院内伝播数に応じて感染対策の実施と徹底を主体的に促すシステムを運営 (レベルゼロシステム)	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 31回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>「標準予防策の徹底」「順天堂医院におけるMRSA感染対策」「インフルエンザ感染防止」「結核感染防止」など、感染対策の基本動作を中心に、患者－職員間での伝播のリスクが高いものに焦点を当てて開催。</p> <p>また、インフルエンザや麻しんなど、季節性や時事の話題性のある疾患について適宜取り上げて注意を促している。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 選択的MRSA保菌者のスクリーニング検査2) 現場主導型のMRSA感染対策活動 (レベルゼロシステム)3) MDROサーベイランスとアウトブレイク対応4) BSIサーベイランスと改善の取り組み5) 抗菌薬委員会と連携した抗菌薬処方適正化活動	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">* 日本薬学会第129回年会報告「6年制長期実務実習・院生カリキュラム・卒後教育から得たがんプロフェッショナル教育の検討」* 6病院における薬剤部門の業務内容の点検* 薬害問題とサリドマイドの対応* 感染対策 手洗いレクチャーと実習* 麻薬の管理について* 調剤課における物流システムの活用について* 物流WG報告 -PDsideを中心に-* 6年制薬学生の事前実習について* 病院情報管理室設置と診療録記載の説明会報告	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 ((有)・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">* 医薬品の採用、購入、管理業務* 調剤業務* 製剤業務 (無菌・一般)* 薬剤管理指導業務* 医薬品情報業務* 医療安全管理業務* 教育業務* 研修業務	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">* 医薬品情報の院内通知* 医薬院の副作用情報の収集* 診療科との情報の共有	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 50 回
・ 研修の主な内容： *人工呼吸器の取扱い *新しいCHDF装置の使用法 *その他 *輸液ポンプ、シリンジポンプの取扱い *放射線装置と癌従事者の質の向上	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ((有)・無) ・ 保守点検の主な内容： *人工呼吸器定期点検 *保育器定期点検 *人工心肺装置定期点検 *血液浄化装置定期点検 *除細動装置定期点検 *その他	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： *人工呼吸器の「スタンバイ」について *受信機のチャンネル違いについて *コンセントの容量オーバーについて *その他	